



発行所

東京九嶺宮原同窓会事務局

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-21-26-508

末永俊幸方

電話 090-6943-8065

印刷：泰成印刷株式会社

電話 03-3631-8141

# 安全平穏な 社会は 来るか



東京九嶺宮原同窓会  
会長 大崎 康博  
(九嶺24回)

一流といわれるアメリカ大リーグ選手の年俸が年10億円とか20億円と言われております(平均約2700万ドル、約3億2000万円新聞報道によれば、此度広島カープに復帰することになった黒田投手もアメリカでの年俸19億円とか)。アメリカ大リーグの選手にこのような高額年俸をどうして払えるのであろうか。

一試合平均、観客数が15600人、入場料1人3000円(円換算、以下同じ)として入場料収入は4680万円、年間試合数162試合、入場料収入は年間75億8000万円です。これを2チームで折半するとして、1チーム年間収入は37億9000万円です。これでは(安い年俸の選手のことを考慮しても)到底大リーグのチームを運営することはできません。

今日では、テレビを通じて全米だけでなく、世界中の人々が居ながらにしてアメリカ大リーグの試合をリアルタイムで観戦することができます。入場料以外のテレビ中継、宣伝、広告その他による収益は私達の想像をはるかに超えるものであり、それによって大リーグ(のチーム)の経営は可能となると思われれます。

今では、瞬時に情報が世界中を駆け巡るのはスポーツや娯楽に限らず、人間が生活

する上で必要な一切の情報であり、その情報を利用して政治、経済その他一切の活動が営まれます。所謂グローバルゼーションです。

企業は、優秀なスタッフ(文系、理系の選りすぐりのエリート)を揃え、これらの情報を集め、分析し、企画を立て、これを以て利益を生むところ、世界中に事業活動を展開します。

そして、その企業が事業を運営するためには、豊富な資金を必要とします。その結果資金力の豊富な者が益々富み財力を増すこととなります。

貧富の差の拡大が数十年の間で世界全体に進んでいることが指摘されており(アメリカでは1976年、所得上位1%の人の所得は、米国全体の所得の8.9%であったが、31年後の2007年には23.5%と2.6倍余り増え、それに応じてその余の人達の所得の減少が生じ、その傾向は世界的に共通して見られるといわれています)。富裕層が益々豊かに貧者は益々貧しくなり、格差が大きくなっていることが指摘されています。

しかも、所得の減少は、所謂中産階級と呼ばれる社会の安定を支える階層に顕著で、貧困層は益々増加しているといわれています。日本に置いてても、国全体の収益(GDP

P)に対する労働者の実質賃金の割合が減少していることが統計上明らかになっております。正規社員の採用を控え、非正規社員、パートタイマーの増加現象であります。中東のイスラム過激派組織の活動に参加する若者がヨーロッパを中心に大勢いることは無視できません。仕事もなく、居場所もなく貧困と偏見の中で行き場を失いつつある人達のせめてもの希望は、自分達を受け入れてくれない豊かな社会が壊れる情景を見ることとなるだろうと恐ろしいことをいう人もいます。この事実を拱手傍観することはできません。社会全体でこれら若者に、人間としてプライドを持ち、将来への希望を持って社会生活を安心して送れるようにする道はないのだろうか。

先日、NHKのラジオ放送で、今の若者を評し、「今だけ」、「お金だけ」、「自分だけ」の「三だけ主義」(言葉がそうだったか記憶が不正確ですが)だと聞き、苦笑しました。しかし、考えてみると、先にあげた富裕層の人達、これを支え、奉仕することに専念している人々が「三だけ主義」と反対の生き方をしていると言えるでしょうか。現在、人間社会が抱えている問題の解決策が何かについて簡単には回答は出そうにありません。しかし、取り敢えず前記「三だけ主義」の反対の立場、即ち、「今だけでなく将来を見据えた」、「お金以外にも大切なものがあることを自覚し」、「友人、知人のみならず社会全体に対して思いを馳せること」が必要であることは間違いないことだろうと考えたりしております。

健全な良識を備えた東京九嶺宮原同窓会の諸兄弟姉のご健勝を祈念します。